

○豊田委員 民主党の豊田潤多郎でございます。

本庶議員に一点だけお聞きしたいと思えます。

先生のレジュメの四ページの下の方の、ライフインベーションの重要性についてというところに我が国の人口動態の関係、高齢化が進み、ますます医療費が増大し、社会保障費が拡大してくる。その第一点の対応として、第一点に先生が挙げられている予防医学の充実ということなんです。

これは私も全く同感でありまして、私も、この四十年來、社会人になってからずっと、このことは先生と同じ考えを持ってきておりました。といいますのは、簡単にちよつと申し上げますと、私も財政当局に二十年ほど勤務をいたしまして、当時から医療費の増大、社会保障費の増大をどう抑えるかというのが大変な問題になって取り組んだわけですが、やはり予防医学というのが大事であろうということ、そこへの医療費、予算の重点的投下というのをやってきたわけですが、余り効果が上がっていないというのが実情です。

それと、現在、私は病院の理事長ということで、現場で医療の第一線の運営に携わっています。本庶先生にお伺いしたいのは、全くこのとおりで私も異論はないんですが、最近、これだけ高齢化が進み、そして終末期の医療というのがすごく高度化、高額化している。逆に、こんなことは大変失礼ですが、もう亡くなられそうな方でも、かなりの長期間、相当高額な医療行為を行うことによつ

て、延命というか命が長く続けられる。これは結構なことなんです。が、社会保障費あるいは医療費の増大という点においては、先生のおっしゃるように、予防医学を充実するとしても、最近私がちよつと不安に思っていますのは、医療費が余り減らずに、プラスアルファの予防医学の充実の分だけが増加されるというようなことになりかねないのではないかと、そういう危惧をちよつと持っております。先生の忌憚ない御意見、感想をお聞かせいただければと思います。

以上です。

総合科学技術会議議員

○本庶参考人 先ほど馳先生から、よりよく死ぬということに関しての御質問がありまして、基本的にそのことと相通するものがあり、今御質問いただいた終末期医療の問題は極めて重要な課題である。これは国民的な合意形成、啓蒙という側面もあると思います。非常に重要であります。一方で、司法の問題も非常に大きい。

と申しますのは、御承知のように、安楽死の問題、それから、医師が手を抜いたというふうなことで刑法で罰せられるという状況の中で、医師として、もうこれは無駄な医療であるということ、家族に説得するのは非常に大きなエネルギーを要する、こういう状況が日本の社会に蔓延している。これも含めて、私どもは改善していかなくやいけない。単にこれは科学技術政策だけの問題でない

ので、問題は非常に大きいと思えます。

それから、予防医学の推進で一言つけ加えますと、よく冗談で申しますが、車両保険は事故があるとだんだん料金が高くなるんですが、健康保険は、何回病気をしても、民間保険は別ですが、社会保険は高くない。健康診断に行っても全部自前である。これはやはり税制的に多少何らかの改革の余地があるのではないかと。そういうふうなことです。